川西利吉　百濟紀　岩崎渉　石井宗一
中山五郎右衛門　原田某

三、調査委員

小賀義夫　藤浦義則　矢野順造　野々村清作
山田美太　山田助次郎　中島和次郎　向井太一
井上隼人

▽持久戰

大電問題批判演說會は十一日天王寺公會堂を第一回として、十二日九條市民殿に、十三日傳法法泉寺、十四日九條市民殿の各所に連日連催して、西尾、東の外關係諸團體の代表者の外に更に神戸より賀川豐彥、藤岡文六、京都より辻井民之助等の諸氏應援の下に、會社の非を糺彈するに極力努め、一般の同情を吸引して効果を收めたるが、第一回大會に發せる宣言は左の如し

宣言

我等は產に立たねばならなかつた。今や馘首された九百の生靈は街路に迷はんとしつゝある、人々に告げんとす。我等は勿論暴力に訴へて此の問題を解決しやうとは思はない。資本家よ反省せよ。汝等にして權謀術策その非を覺ちざるは我大眼なして時運の日を近づかしむる口火となるのである。我等は大阪市民に忠實なるが故に速に此の爭議の解決を望む者である。されど我等の要求は合理的にして伏仰天地に恥ぢざるものなるが故に我等は正義の爲に屈する能はず飽迄結束なし自重し而して餓死する迄も戰はむ。我等は宣言す。橫暴にして陋劣な資本家の陋策に誘はされず。歩度堂々最後の一人まで戰はん。

右宣言す

大正十年五月十日

大電罷工團

會社が最善の策として採りし高壓手段も、反つて多數馘首者の反抗を激成するの結果となり、罷業に加はらず就業を續けし者三十九名、九日夜中に復歸を申出でたる者二十三名計六十九名に過ぎず。而も會社は十日從來既に四百名の欠員あれば從前人員總數の傭雇、復職は斷じて行はずと號し、偶々復歸を希望する者ある場合にも直に之を許可する事なく、十一日には職工募集の締切りを言明せり。斯の如くして十二日午後十一時迄の復職者、不復職者數として警察部に届出でしものは、春日出に於ては總數三百九十四人中復歸二百二十八名、不復職百六十七名、安治川に於て總數(解雇前)四百八十六人中復職九十五人、不復職三百九十一人なりき。

唯此に興味ある事は、兩發電所の閉鎖を行ふも電力供給に支障を感せずと號し、全從業員の馘首を斷行して其復職を希望せざるが如く誇號せし會社が、復職希望者の數の少數なるを知り、其裏面に於て種々なる手段を弄して就職に努むると共に一旦就業せる職工に對しては、罷業團に參加することを